アスパラガス高温期における品質向上対策について

令和2年7月　アグリ技研（株）

1.収量・品質状況について

①収量＝梅雨入り後の気温の上昇と多湿により収穫量も増加傾向（若茎の下位階級増加M・Sクラスの増加）

②品質＝穂開き・裂け茎・若茎の曲りなど例年以上の品質低下（収穫量の20～30％・品種による格差）＊ウエルカムは多傾向

2.気象的（北部九州）について

本年は、暖冬で経過して来て3月下旬まで平均気温で約2～3°C高く4月は0.3～2°C低く、5月からは1～3°C高くなり例年より早くウエルカムを中心に製品・品質面に大きなダメージでこの現象は全国各地でも同様な傾向です。

3.品質向上対策について

管理面	対策	資材（肥料）
水管理	土壌表面や燐芽群の乾燥は休眠や同化能力低下となるために、晴天日の潅水は　毎日数回（2～3回）を少量多回数潅水する。灌水の気化熱で下温効果も期待できる。　「斑点性抑制のために十分な換気も取り行う」	
温度管理	本来生育適温は25°C前後　施設の遮光資材（高温期のみ）や循環扇、妻面の開放など工夫する。　遮光することで地温抑制にもなるので品質向上にも繋がる。	
地温抑制	地温25°C以上になれば極端に格外品増加となるので表面の温度を抑制する。　小まめな潅水とカルシウム材の処理⇒⇒**カルタマQ（卵殻）5～10袋/10a**　「地温抑制とカルシウム補給」	
茎葉の整理	①二次葉・枝の過剰は、樹勢低下（光合成低下）となるので茎葉整理と**PKゴー2000倍処理（品質向上）** ②下枝の極端な除去は、畝表面に直性直射日光を当てるので品質低下となる（軽めな除去作業）	
施肥の対応	・発根促進、樹勢維持⇒⇒**アミクエを月に3回程　5～10kg/10a（潅水処理）**	
	・アミノ酸液肥⇒⇒**ウルル10号を月に3回程　10～20kg/10a（潅水処理）**	
	・光合成促進、葉色濃⇒⇒**クドグリーンを月に5回程　500倍（葉面散布）**	
	・草勢維持⇒⇒**コラーゲン・ラボを月に5回程　500倍（葉面散布）**	
	・茎葉硬化、太物増加⇒⇒**PKゴーを月に3回程　2000倍（葉面散布）**	

通常の施肥（振肥）は、収穫量に応じてNを高めましょう。